

ASHIGIN WEALTH REPORT

2025.11.28 VOL. 29



金投資について

最近では金融商品としての金関連投資が広がりを見せ、資産運用ポートフォリオに金投資を積極的に活用される方が増えております。今回はこうした動きを踏まえ、【金投資】について取り上げたいと思います。



1. 金について

(1) 金の特徴

金には、宝飾品としての実物需要と、価値保蔵（投資）手段としての金融需要という二つの側面があります。世界的にも、金の埋蔵量は希少であり、これまで全世界で25メートルプール3杯分程度しか採掘されていないとされていることから、供給量に限りがあり、需要が高まると価格が上昇しやすい等の特性があります。

(2) 金投資が注目される背景・理由

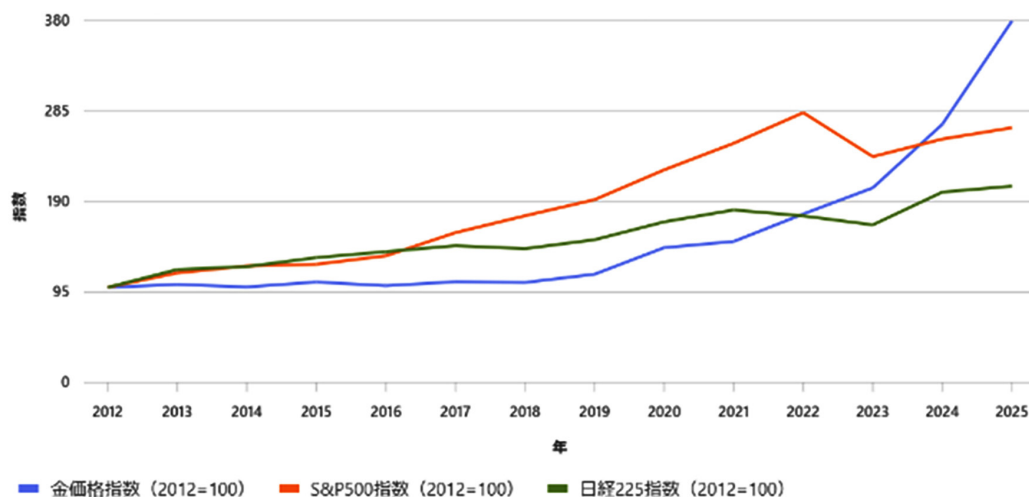
金投資はこれまで実物資産として、伝統的な金融資産である株式や債券中心の資産運用ポートフォリオ運用に安全資産として数%程度組み入れる形で取り組まれることがほとんどでした。しかし最近の世界的なインフレの傾向に加え、中国や新興国等の米ドル依存脱却を背景に、金の保有量を増やす政策を採用するなど、金需要が増加傾向にあります。このような金需要の増加に伴い、金価格が上昇していることを受け、積極的に資産運用商品の1つとして金を組み入れる動きが広まっております。

(3) 金価格の推移について

金価格の推移は以下の通りです。

【表】金価格の推移

【ご参考】2012年以降の各指数のパフォーマンス比較（2012年=100）
※指数比較表作成に生成AIを活用しております



2012年のアベノミクス以降の比較では日経225の上昇はS&P500に比較的近い一方、金価格の上昇が前述した各指数に上回るパフォーマンスを示しております。

2. 金への投資手段について

以下に主な金への投資手法をご紹介します。

(1) 金現物

田中貴金属等金現物の取扱いのある会社で購入することが可能です。但し、昨今の金投資ブームにより金現物自体の購入が難しくなっているケースも見られます。企業株式や債券と違い発行体が存在しないため破綻リスクがなく、円安や物価上昇時のヘッジ資産として期待ができます。



(2) 金融商品

① 金ETF (レバレッジ商品あり)

金融商品として金価格指数に連動するETF(上場投資信託)を購入する方法です。上場商品のため換金が容易であり、株式等と同じ感覚で投資することができます。一部商品はレバレッジ組み込み商品となっており、金価格の上昇を上回る一方、下落も同様の値動きをします。

② 金鉱山株式

金を採掘する事業会社の株式に投資する等も金投資の派生として考えられます。主な投資先としては、非鉄金属を扱う会社(総合商社等含む)が挙げられます。配当を得られる等のメリットがありますが、金価格以外の企業固有リスク(経営リスク等)の影響を受けることがあります。

3. 金の投資環境および留意点

金は利息・配当等を生み出さないことから、一般に市場金利と逆相関の関係にあり、金利上昇局面や高金利下では金価格は下落するリスクが高いといわれております。現在の金価格上昇は、世界的なインフレや新興国を中心とした米ドル一極支配体制離れの動き等、金利以外の要因によることが大きいと考えられます。特に中国等の需要が落ち着いた場合は短期的に急上昇していることの反動で調整または下落の可能性も否定できません。金投資にあたっては資産運用に関する専門家にご相談いただくなど十分な検討が必要です。



4. まずは専門スタッフに相談を

いかがでしたか?金は有力な現物資産として投資する価値を有し、あなたの将来の資産形成の一助となることでしょう。ただし多様な投資手法があり、ご自身にとって最適な投資手法には十分な検討が必要です。足利銀行では専門スタッフがご資産の運用に関して幅広くご相談を承っております。ぜひお近くのブロック個人営業部にご相談ください。

